

戦略的に進めることで、国際的なプレゼンスの向上と北九州市の持続的な成長に資するよう、積極的に取り組んでまいります。

3 小中学校における熱中症防止の取り組みと今後の対策について

食堂の再開で経済効果も生まれる可能性も、再開は秋の予定

本市は独自の活動判断基準により、暑さ指数（WBGT）が午前7時時点で予測値33以上となった場合、教育委員会の判断により、本市の小中学校の空調設備のない場所での授業や部活動、そして休み時間の外遊びなどを一斉に中止しています。これは、熱中症による事故を未然に防止するという児童生徒の健康を考えてのことだと認識しています。暑さ指数が基準値以上になった日も、子どもたちが体を動かすことができる環境を整備することについて、教育委員会の見解と今後の対策について伺います。



小金丸かずよしの定例会議事録

上記の小金丸かずよしの定例会での一般質問の詳細はホームページや右のQRコードからご確認ください！

北九州市議会
6月定例会



北九州市議会
9月定例会



小金丸の活動報告
Koganemaru's Report



浜松市役所



京都市議会本会議場



京都市役所



横浜市役所

総務財政委員会 行政視察レポート

2025年7月23日(水)～25日(金)

相模原市、東京都足立区、横浜市、浜松市、京都市の

5つの都市にて行政視察を致しました。

各行政関係者の方々には受け入れをいただき、心から感謝を申し上げます。

【相模原市】 犯罪被害者支援条例とその取り組みについて、北九州市においての条例制定に向け、実情をヒアリング。

【足立区】【横浜市】 行政のDX化の状況について、行政サービス効率化によって市民の大切な時間を無駄にせず、慢性化されていた職員の残業の短縮化にもつながっている。
＊北九州市でも対象の手続きを事前にオンラインで申請できる「書かない」「待たない」「行かなくていい」区役所の実現に向けて、「スマらく区役所サービスプロジェクト」が7区において進められています。

【浜松市】 政令指定都市の中でいち早く行政区の再編を行われた浜松市の事例を学びました。減少していく人口を見据えた行政区の再編は7区から3区へ再編され、時代の変化に合わせた柔軟で効率的な組織運営と住民サービスの向上という目的があります。

【京都市】 行財政改革の説明を受けました。インバウンドから生じる経済効果の反面、財政面の健全化に向けて、様々な角度から変革が行われています。

北九州市の生い立ちや展望があり、これを当てはめていくことは無理が生じますが、他都市に出向き、実例を学んでおくことはとても重要だと感じました。

まるまる元氣な北九州市へ

《太田清治 教育長より》

暑さ指数がガイドラインの基準値を超えた場合でも、できる限り児童生徒が安全に体を動かせるよう、空調設備のある特別教室等を利用して、体育の授業では、ストレッチやリズムダンス等の体力向上につながる運動、休み時間には、校舎内をめぐるクイズラリー等、楽しみながら体を動かす活動を各学校が工夫して行っております。ご提案の空調の整った学校外施設の利用については、運動の機会を確保することにつながります。他方、移動時の安全確保や時間の確保、一般利用との調整等、課題もございます。こうした中、学校体育館へのエアコン設置に着手すべく、今回の補正予算議案に3校分の実施設計費用を計上したところです。引き続き、様々な対策を講じながら、すべての子どもたちが安心して学び、心身ともに健やかに成長できる教育環境の充実に努めてまいりたいと考えております。



《この号のコンテンツ》 1 令和6年度 北九州市 決算について 2 6月の定例会議 3 9月の定例会議

9月定例会では、令和6年度決算の審査の他、8月に起きた大雨による被害の復旧費用などを盛り込んだ補正予算案、北九州空港機能強化・利用促進等調査特別委員会の設置議案など計65議案が審議可決されました。

令和6年度決算の特徴

令和6年度は、歳出の膨張圧力に耐えつつ、成長への再起動に堅実に取り組んだ決算であった。

具体的には、市税等は前年度と比較すると実質的に増収となり、堅調な伸びを示した一方、物価高の影響や扶助費、人件費、公債費などの歳出の増加圧力が市税等の増収を大幅に上回った。



● 今後も物価高等に伴う歳出の膨張圧力が一層強まることが見込まれるため、引き続き強い危機感を持って財政運営に取り組む必要がある。

令和6年度の具体的な取組・成果

60年ぶりの転入超過

- 人口の社会動態が**60年ぶりにプラスに転換**（転入超過+492人）
- 「北九州市の明るい話題が増えた」との認識が拡大（令和6年度市民意識調査）
- 「住み続けたいと思う」市民の割合が**過去最高84.1%**（R6.8行政評価に係る市民アンケート調査）

経済・物流・観光の活性化

- 北九州空港貨物取扱量 **36,603トン**（過去最高）
- 北九州港フェリー貨物取扱量 **5,292万トン**（過去最高）
- 「コクラ・クロサキ リビテーション」の第一弾「**BiZiA KOKURA**」完成
- 小倉城 約30万人、小倉城庭園 約13万人が来場（過去最高）

市民の生活環境の充実

- 「おいしい給食大作戦」、「未来の介護大作戦」の実施
- こどもまんなかアクションの推進
- シン・子育てファミリーサポート事業が「ベスト育児制度賞」受賞

「人」や「モノ」の流れを作る

- 国際スポーツ大会開催
バレーボールネーションズリーグ2024福岡大会、第2回FIGバルクール世界選手権・北九州、卓球WTTファイナルズ福岡2024など
- 北九州空港新アクセス「**朽網駅特急ルート**」誕生（R7.4.1開始）
- 国際会議の開催件数 **15件（全国6位）**（過去最高）
- ふるさと納税受入金額 **24.7億円**（過去最高）
※ ICCA（国際会議協会）基準、対象期間：令和6年1月1日～令和6年12月31日
- U・Iターン就職決定者数 **256人**（過去最高）

若者を応援

- 「Z世代課」新設、Z世代はみ出せコンテストの開催
- 「コクラBEAT」開催（R6.10.25～12.25）来場者数 156万人

こがねまるかずよし
小金丸数嘉

北九州市八幡東区生まれ

プロフィール 1974（昭和49）年9月12日 / 元氣な50歳
1981 たちばな幼稚園 卒園 / 1987 平野小学校 卒業（現：花尾小学校）
1990 花尾中学校 卒業（サッカー部） / 1993 八幡高校 卒業（サッカー部）
1998 関東学院大学 経済学部経済学科 卒業 / 2001 UC Irvine 国際政治学 修了
2024 東京、北九州で製版・印刷業界にて25年間勤務
2025 北九州市議会議員選挙 初当選

家族 妻 / 長女 / 次女 / 長男 / 愛犬ヨーキー
趣味 プロレスファン（8歳から）
子どもとおいしいもの巡りすること
特技 英語、スペイン語（南米各地への遺跡めぐり）
尊敬する人 燃える闘魂 アントニオ猪木さん
座右の銘 一歩踏み出す勇氣

元氣
まるまる
次女書

北九州市議会議員
小金丸かずよし事務所

〒805-0012
北九州市八幡東区川淵町9-17-2F
☎ 093-647-0506 ☎ 093-647-0508

市政相談はメールにてお問い合わせください
✉ genki@koganemarukazuyoshi.jp

公式ホームページ
https://koganemarukazuyoshi.jp



まるまる Instagram @koganegram
活動は随時 Instagram にて発信中！
いいね・フォローをお願いします



まるまる LINE
まるまる八幡と歩む会より
さまざまな小金丸情報を
送らせていただきます



詳細は北九州市のホームページにてご確認ください。



北九州市議会 6月定例会

2025年6月9日(月) 11:30～12:00

一般
質問

- 1 特設公衆電話について
- 2 東田大通り公園を含む東田地区の今後の開発について

- 3 北九州市役所本庁舎食堂の再開について
- 4 八幡東幼稚園跡地の維持管理について



1 特設公衆電話について

災害時を見据えた連絡手段の確保、
またその特設公衆電話の周知や使い方に関して

北九州市は、災害リスクの低いまちとして自然災害が非常に少ない点が特徴の1つで、私たちが安心して暮らせるまちです。これは本市が、企業誘致を進めていく上でも利点の1つとなっています。一方、国内では、2011年3月の東日本大震災、2024年1月の能登半島沖地震など、大規模な自然災害が発生しております。また、本市は自然災害が少ないが昭和28年6月に北九州大水害など発生。近年梅雨時期に予想以上の集中豪雨になり土砂災害も頻発し、自然災害がゼロとは言えず、防災に関する啓発や避難物品の用意など、日頃からの備えが重要だと考えます。地方自治体が行っている様々な災害対策の中に、防災計画に基づき、避難所に臨時で設置する特設公衆電話があります。それはNTT東日本及びNTT西日本が避難所や防災拠点などに事前に設置している災害対応用の電話で、災害時には無料で通話ができるほか、停電時でも使用可能で一般回線よりも繋がりがやすいという特長があります。東日本大震災では、最大約190万回線の固定電話が不通となり、携帯電話の基地局も多数停止、通信の集中による規制も行われ、多くの地域で連絡手段の確保が非常に困難な事態に陥りました。この経験を踏まえ、特設公衆電話は、従来の災害後に設置する方式から、平時から設置しておく方式へと転換がされている。新聞報道によると、定時から設置しておく、いわゆる事前設置台数は、東日本大震災が発生した2011年度の9000台から2023年度では8万9000台と大きく増加をしています。そこで2点お尋ねをいたします。

- (1) 本市での特設公衆電話の設置状況と今後の設置計画について、見解を伺います。
- (2) 携帯電話などの普及により、公衆電話に馴染みのない方々も増えています。特設公衆電話がどこにあるのか、その使い方について防災訓練等の機会を通じて、市民に周知すべきと考えますが、見解を伺います。

《 柏井宏之 危機管理監より 》

特設公衆電話は、特に大規模地震など激甚災害時に、携帯電話が使えなくなった場合の通信手段として有効である。市内にはこの災害時に有効に活用できる公衆電話が合わせて172ヶ所に設置されている。

- 特設公衆電話の設置
体育館等の大規模予定避難所など 46ヶ所〈NTT西日本〉
- 特設公衆電話と同等の機能を持つ公衆電話の設置
避難所となる市民センター 126ヶ所〈北九州市〉

昨今の激甚化、頻発化する大規模災害に備え、未設置の大規模予定避難所などにできる限り設置したいと考えており、今後の新たな設置に当たり、NTT西日本と協議を進めていきます。また、特設公衆電話の市民への周知についても市のホームページに設置場所などに掲載しているが、市民の認知度をさらに高めるため、防災Xなど、SNSで広報するとともに、地域での防災訓練、出前講演などの機会も有効に活用していきたいと考えている。

2 東田大通り公園を含む 東田地区の今後の開発について

東田地区や周辺地区が持つ魅力を最大限に生かしていく取り組み

東田大通り公園は、2001年に開催された「北九州博覧祭」の跡地に整備された都市型の大型公園で、近代産業の発展の礎となった東田の地に位置しています。東田地区は官営八幡製鐵所発祥の地で、日本の工業発展を支えた地域です。その後の産業構造の変化によって、現在では、「環境未来都市北九州」の象徴となるようなさまざまな取り組みがなされています。加えて、周辺には大型商業施設、いのちのたび博物館、環境ミュージアムやスペースLABOなど、県外からの来訪者も多い教育施設が立ち並び、JRスペースワールド駅にも隣接し、交通アクセスもよい場所にあり、週末には多くの人で賑わいをみせています。

さらに近年では、東田地区の公共空間を一体的で連続性のある空間に再編し、居心地よく歩きたくなる公共空間づくりを目指した「東田オープンパーク WEEK」や、中央町地区、枝光地区を含めた人の周遊を意識した歩行空間を創出する「東田バルマルシェ」や、八幡東区最大のお祭り「起業祭」との会場連携などの取り組みも行われています。イベント期間中は東田地区や中央町地区、枝光地区などの周辺地区に多くの人が集まり賑わいをみせています。一方で、これらのイベントは期間限定での取り組みであるため、まちの賑わいが平日まで浸透しているとはいいがたい状況です。今後、平日を含めた通年でまちが賑わい、その効果が周辺地区まで波及するように、東田地区や周辺地区が持つ魅力を最大限に生かしていく取り組みが必要であると感じています。そこで2点お尋ねします。

- (1) 東田地区の今後の整備計画について、見解を伺います。
- (2) 東田大通り公園を含めた中央町地区、枝光地区との連携について、今後どのようにしていくべきとお考えか、見解を伺います。

《 武内和久市長より 》

東田大通り公園を中心に誰もが居心地よく歩きたくなるウォーカブルな都市空間とし、市民の皆様が日常的に気軽に訪れたいくなる環境を整えていきたいと考えている。

○ 東田大通り公園について

- (1) 幅広い年齢層が気軽に運動やストレッチを行える健康遊具や子どもたちが楽しめる遊具の整備。
- (2) Park-PFIの導入などにより、民間活力を活かした日常的な集客施設の整備。

○ 東田、中央町および枝光の地区間連携について

各地区がそれぞれの歴史や文化的特性を活かしつつ、共通のまちづくりの方向性を持たせて連携、機能を補完し合う持続的なまちづくりを推進していきたいと考えている。

3 北九州市役所本庁舎食堂の再開について

食堂の再開で経済効果も生まれる可能性も、再開は秋の予定

北九州市役所本庁舎が開庁した1972年から約50年間に渡り、市職員、市民の方々に親しまれてきた本庁舎地下の食堂が昨年の2月に閉店し、早1年以上が経過しています。この間、市の行政財産を有効活用し、市民の利便性の向上や職員の福利厚生 of 充実を図るため、再開に向けた準備を進めているとお聞きしています。北九州市役所本庁舎は小倉の中心地に位置し、近隣には来訪者が急増している小倉城や、多くの市民が利用する勝山公園や中央図書館などもあり、新しくオープンする食堂は、運営次第では市職員のみならず、観光客やビジネスで利用される方々などの利用も見込むことが考えられます。武内市政が目指す「稼げるまち」へ向けての経済効果も生まれる可能性も十分にあり、期待感も高まっているところであります。そこで、本庁舎地下食堂の再開に向けたスケジュールと再開について市民に今後どのように周知していくのか、見解を伺います。

《 三浦隆宏 総務市民局長より 》

新たな食堂の運営事業者を募り、昨年12月に「一般社団法人 まちはチームだ」に決定。主な提案内容の1つ目は、ランチタイム以外にもカフェとして利用可能となる予定、市職員や来庁者がビジネス上の打ち合わせなどにも活用できること。2つ目に、小倉城などの指定管理も行っている当該事業者は観光面との相乗効果を狙った運営も可能であることなど食堂の新たな展開が見込める内容となっています。市役所本庁舎の周辺には様々な施設が集積していることから、新しく生まれ変わった食堂を多くの市民や観光客の方にも利用していただけるのではないかと考え、経済効果も期待しているところです。再開に向けたスケジュールは、現在行っている内装や設備等の工事全般を7月中旬を目途に完了させ、その後約1か月間、シミュレーションや従業員教育等のオープン準備を行った後、この秋にも再開予定です。

4 八幡東幼稚園跡地の維持管理について

安全上、防犯上も危険な場所とならないように

令和6年度末に閉園した八幡東幼稚園の跡地の活用方法が決まるまで、市と地域が協働して、この場所が安全上、防犯上も危険な場所とならないように維持していくべきだと考えますが、見解を伺います。

《 太田清治 教育長より 》

跡地の利活用について検討を行っているが、ご指摘の活用方法が決まるまでの間の維持管理については、周辺地域の安全確保の観点からも、丁寧に対応する必要があると考えている。そのため、施設管理者であ

北九州市議会 9月定例会

2025年9月16日(月) 15:15～15:45

一般
質問

- 1 皿倉山イルミネーション事業について
- 2 本市の姉妹都市、友好都市との今後の国際交流事業の推進について
- 3 小中学校における熱中症防止の取り組みと今後の対策について



1 皿倉山イルミネーション事業について

今年16回目を迎えるボランティア団体が行っている事業について

本市は2018年に「日本新三大夜景都市」に初めて認定されて以降、2022年、2024年に続けてランキング1位で認定されるなど、夜景観光への取り組みを積極的に行い、市内外から非常に高く評価をされています。本市の夜景観光の最も魅力的な場所の1つである皿倉山では、「皿倉山にぎわいづくり推進協議会」により「皿倉山イルミネーション」が行われております。これは2009年に始まり、今年で16回目を迎えるボランティアによる魅力発信事業で、皿倉山北側斜面9合目付近に、個性的なデザインのイルミネーションを設置していただいています。このイルミネーションは、皿倉山の冬の風物詩として、新聞、テレビニュース、SNSなど様々なメディアに取り上げられ、北九州市民に広く認知されており、この取り組みへの期待は年々高まっていると感じています。この事業を支えているのは、ボランティア団体の有志の皆様です。本市のホームページにおいても、危険な急斜面での作業や毎年趣向を凝らしたデザインに対する感謝と敬意や、市民ボランティアによる継続的な取り組みとして、地域の魅力発信に貢献していることが明記されておりますが、ボランティアスタッフの実情としては、作業をされるスタッフ不足を自社の社員の動員で賄うなど、厳しい時期を迎えているようです。この事業を継続していくためには、本市の観光プロモーションのひとつとして、本市の事業として位置づけることも検討する必要があります。そこで2点質問させていただきます。

- (1) 皿倉山イルミネーションについての、本市の見解を伺います。
- (2) 八幡大空襲による戦没者の慰霊を行い、また八幡の平和のシンボルとして毎年8月8日とお盆の8月13日から15日に八幡を表す「八」の字で点灯する皿倉山の八文字焼を実施しております。皿倉山イルミネーションが、本市の冬の風物詩としてこれからも継続していくため、事業予算、補助額の増額を含めた見直し、八文字焼のように本市の事業として位置づけるなど検討してはどうかと考えます。見解を伺います。

《 三浦隆宏 総務市民局長より 》

このイルミネーションの魅力は市民の皆様のご熱意とご尽力、自由な発想と独自の取り組みによって育まれてきたと考えており、市が直接事業を実施するのではなく、地域の皆様の主体性を尊重しつつ、側面支援を中心に関わっていくことがふさわしいあり方ではないかと考えている。そのため北九州市としては、今後も皿倉山イルミネーションに込められた「八幡のまちににぎわいを」という思いをしっかりと受け止め、地域の皆様が継続的に活動できるよう、環境整備や広報等の支援に努めていきたいと考えています。

2 本市の姉妹都市、友好都市との 今後の国際交流事業の推進について

これまでの実績と信頼関係を土台に持続可能で多層的な国際交流を
本市は姉妹・友好都市との交流をはじめ、地域での国際交流を進めるため、福岡県下の外国公館等と連携するとともに、国際交流員などによる様々な取組を行っています。今年7月、「北九州市と高雄市との都市間の連携強化に関する協定」が締結されました。今後は、経済分野

る教育委員会が、園舎の機械警備による防犯対策や園庭の雑草対策を行うなど、周辺地域の方が安心できるよう適切な維持管理に努めているところです。また、高見小学校区では、地域や保護者、警察等と連携して、「北九州市通学路交通安全プログラム」に沿って、通学路の安全点検等を実施しており、子どもたちが安全に通学できるよう取り組まれています。さらに、「生活安全パトロール隊」や「スクールヘルパー」等が、交通安全指導や見守り活動を行うなど、地域や保護者の皆様の協力も得ながら、子どもたちの安全確保に努めております。今後も、地域をはじめとした関係者の皆様と連携しながら通学路の安全対策に取り組むとともに、跡地の維持管理について適切に対応していきたいと考えております。

での協力強化やスマートシティ実現に向けた情報交換による効率的な都市運営、観光をはじめとする魅力の相互発信などに取り組んでいくことです。また、同時に「北九州マラソンと高雄富邦（たかおふほう）マラソンとの友好交流に関する覚書」も締結。今後、スポーツ分野での友好交流を図るとともに、相互の大会のPR及び協力を深め、両市のスポーツ事業のさらなる発展に貢献することを目指すとしております。このような取り組みに期待する市民は非常に多いと思います。これまでの歴史の中でまちの発展とともに、国際都市を見据え、様々な国の都市と姉妹都市・友好都市協定を締結し、多くの取り組みを通じて交流を深めてまいりました。青少年交流においては学生の相互訪問、研修、ホームステイ、スポーツなどを通じた次世代の国際人材育成を図る取り組み。文化交流では、各々の伝統芸能・食文化紹介イベント、国際フェスティバルなどの開催。そして経済・環境分野においての連携では、本市が公害克服をしてきた歴史と経験をともに、環境技術であるごみ処理や上下水道整備など、行政による技術指導や企業間のビジネス交流にも発展してきました。これまでの事業の検証や報告書を拝見すると、大きな成果を上げてこられたと感じます。そこで、2点質問します。

- (1) 本市の国際交流事業のこれまでの成果と現在の課題について、本市の見解を伺います。

(2) 今後は、姉妹都市・友好都市との交流について、一層盛んにしていくことが必要と考えます。例えば、姉妹都市の高校生選抜チームによる野球の交流試合を毎年交互に行ってはどうかと考えます。「北九州市の代表」として行動することにより、選手としての経験に加え、両都市の知名度やブランド力の向上にも貢献でき、その体験をした若者たちが、将来、まちに誇りを持って生きていくなどの好影響を及ぼせるのではないかというふうに考えております。また、国際ビジネスの連携を強化していく上で、北九州市の持つ水道技術や環境事業の交流をきっかけに、両都市の若者を中心としたビジネスマッチングや国を超えたスタートアップの事業の連携などにつなげていくことも有効と考えます。以上のように、これまでの実績と信頼関係を土台に、チャレンジを絶やすことなく、持続可能で多層的な国際交流を進めていくことがこれから求められていきます。行政、市民、企業が一体となった国際交流事業が、「国際共生都市北九州市」を生み、地域の活性化と国際感覚を担う次世代育成に貢献できるはずで。そこで、本市の国際交流事業の今後の展望について見解を伺います。

《 武内和久市長より 》

国際交流事業を着実に実施し、実績と信頼関係を築いてきたなか、今後は、姉妹・友好都市との交流にとどまらず、世界に向けた北九州市のポテンシャルのさらなる発信やグローバルな都市間連携を戦略的に進めていくことが、北九州市の持続的な成長につながるものと考えている。その具体的な一歩として、今年度は、インドのテランガナ州及び台湾の高雄市と新たに都市間連携協定を締結。成長著しい未来志向の都市と連携を図ることにより、市内企業の国際ビジネスの参画機会の拡大や国際協力の推進、投資環境の魅力発信、さらにはインバウンドや人材育成の分野において、相互に利益を生み出す取組を進めてまいりたいと考えております。

今後も、これまで培ってきた姉妹・友好都市との絆を大切にしつつ、「グローバル挑戦都市・北九州市」の実現に向けて、新たな都市間連携を